「ART関係報告」について
次世代都市交通WGの議論要旨

報告内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 連節バスによる正着要件およびバスベイ形状に関する実験結果 2. ART向け技術の検討状況 3. 正着制御法および評価実験の中間報告
WGの主な議論	<ol style="list-style-type: none"> 1. バスベイ形状について <ul style="list-style-type: none"> ・東京五輪向け路線の特異解にならないようにすべき。全国展開を見据えて標準化できる解を見出したい。 ・正着については、ぜひ実現したい。全部のドアでなくても、一か所だけでも価値はある。 ・バスベイの検討では、視覚障害者の歩行への支障について考慮する必要がある。 2-1. 車椅子スペースについて: 車椅子利用者の使用性への配慮も必要だが、一方で利用頻度から考えると一般席としての利便性も考えたい。IT技術を駆使して両立するようにする。 2-2. CACCIについて: 前方走行車に速度ムラがあると影響が伝搬してしまう。専用レーンを前提に考えたい。 3. 正着評価実験について <ul style="list-style-type: none"> ・定量的な評価が出来てきたのはよいが、まだばらつきが大きい。 ・低速で進入した場合のほうが正着精度が悪いのは、適合が不十分とも思えるが、制御理論上の問題がないかについても要確認。
今後の進め方	<ul style="list-style-type: none"> ・具体的な検討が進んでいるが、すでに製品化に向けた仕様決定段階にはいるものもあり、今後日程管理とコスト管理も必要になる。 ・一方で、2020年の五輪の出口だけにとらわれない研究開発も視野に入れて進める。